

学部名	生活環境学部
学科名	心身健康学科
コース名	スポーツ健康科学コース

生活環境学部のディプロマポリシー 【学部教育理念】 奈良女子大学生活環境学部は、生活に根ざした理論と実践の総合的学知を提供し、主体的でリーダーシップを発揮できる人材を育成することを目指しています。教育内容は、生活の根幹である衣食住を基盤として、心身の健康・情報・文化などの多様な分野にまで及びます。学際的な教育を通じて、生活に関する専門的知見と生活の質の向上に向けた新しい発見と創造を生み出す力を持ち、個人、家庭そして社会の生活を主体的に創造できる能力を持った人材を育成します。	生活環境学部のカリキュラムポリシー 【生活環境学部のカリキュラム構造】 生活環境学部のカリキュラムは教養教育科目と専門教育科目から構成されています。教養教育科目ではグローバルな視野を培う外国語科目、健康な生活の基礎づくりとなる保健体育科目が必修となっているほか、幅広い教養と創造性を身につけるための教養科目を提供しています。専門教育科目では初年次科目として生活環境学の全体像や各学科・コースで学ぶ内容を概論的に理解するための学部共通科目と学科共通科目、専門的知見を修得するための科目として学科専門科目とコース専門科目を開講しています。各学科・コースとも生活環境学部における学修の総括として、卒業研究を通じて、自身の専門分野に関する研究を深め、成果発表することを卒業のための必修要件としています。また、大学院に進学して更に研究を深めたいという意欲のある学生に対しては大学院開講科目の先取り履修を認める6年一貫教育プログラムも提供しています。	生活環境学部のアドミッションポリシー 【生活環境学部の教育理念】 生活環境学部は、生活に根ざした理論と実践の総合的学知を提供し、主体的でリーダーシップを発揮できる人材の育成をはかることを目指しています。教育内容は、身体や性にはじまって、衣食住に関わるあらゆる問題に及び、さらには地域や世界の問題までも射程に収めています。このような幅広い教育を提供するために、生活環境学部は文理融合型学部として、食物養学科・住環境学科・情報環境学科・心身健康学科・生活文化学科の5学科から構成されています。学科の性格が多様であることに伴い、教育方法もまた理論・比較・調査・実験と多岐にわたります。しかし、生活環境学の総合的教育という学部理念に即して、つねに生活者の視点を見失わないことを重視しています。生活者の視点とは、利用者・消費者といった立場からの批判と改善の視点であり、わたしたちの生活の質の向上に向けた新しい発見と創造を生み出す視点です。生活環境学部は、各学科の教育目的に応じて専門性を高めるだけでなく、学科を超えた学際的な教育を通じて、領域横断的でグローバルな視野をもって問題解決をはかる人材を養成したいと考えています。
【身につけるべき「資質・能力」】 - 生活環境に関わる専門的知見と幅広い教養を持ち、生活を主体的に創造する能力。 - 生活の諸問題について生活者の視点より分析理解し、その解決に積極的に挑戦する能力。 - 自律的な行動と判断を行い、他者と柔軟なコミュニケーションを築き、個人、家庭そして社会の生活をリードできる能力。	【教育の内容と方法】 生活環境学部の教育内容は生活の根幹である衣食住を基盤として、心身の健康・情報・文化などの多様な分野にまで及びます。幅広い教育内容を反映して、教育方法もまた理論・比較・調査・実験と多岐にわたります。多岐で多様な教育を通じ、専門性を高めるだけでなく、領域横断的でグローバルな視野をもって主体的に生活の問題解決をはかる人材を養成したいと考えています。	【生活環境学部が求める学生像】 上記の教育理念にもとづき、生活環境学部は次のような資質及び意欲をもつ学生を求めます。 (1) 幅広い関心と各学科が必要とする基礎的学力をもつ。 (2) 生活者の視点をもつリーダーあるいは主体的・能動的な生活者になることを目指している。 (3) 日常生活に対する感受性と洞察力にすぐれ、豊かな想像力をもって他者との共生・協働をはかり、社会的弱者や文化的背景を異にする他者への共感をもつ。 (4) 社会のリーダーあるいは主体的生活者となるために、課題発見能力・問題解決能力・論理的思考力の開発に積極的に取り組む意欲をもつ。 (5) 各学科の教育理念に即したカリキュラムを真摯な姿勢で学び、学んだ成果を、専門職・企業人・公務員・教員等として積極的に地域や社会に還元したいという意欲をもつ。
心身健康学科のディプロマポリシー 【学位授与の前提となる教育理念】 こころと身体 の健康と人間を取り巻く環境との相互作用についての総合的な知識や技能を身につけ、健康や生活のあり方について考え、よりよい生き方や環境のあり方を提案することにより社会に貢献できる人材を育成します。	心身健康学科のカリキュラムポリシー 【基本的なカリキュラム構造】 本学科では、こころと身体 の健康に関する内容を幅広く学習した後に専門性を高めるために、1-2学年ではコース分けを行わず、主に専門基礎科目を学びます。基礎力を高めるために幅広い分野の専門基礎科目が開講され、偏りのない履修をするためのルールが作られています。3学年以上では、生活健康学、スポーツ健康科学、臨床心理学のいずれかのコースに所属し、所属したコースで開講される学科専門応用科目を主に学び、専門性を高めます。また、各コースで卒業論文作成に向けて研究指導、執筆指導を行います。大学院に進学して更に研究を深めたいという意欲のある学生に対しては大学院開講科目の先取り履修を認める 6年一貫教育プログラムも提供しています。	心身健康学科のアドミッションポリシー 【教育の理念】 心身健康学科は、生活と「心と身体 の健康」をキーワードとし、身近な生活環境、社会環境、生活習慣と心身の健康との関連に関する幅広い知識と健康の維持増進の実践力を持った人材の育成を目指しています。「心と身体 の健康」に関する知識を総合的に学ぶため、心身健康学科には、生活健康学コース・スポーツ健康科学コース・臨床心理学コースの3コースが設置されています。生理学、心理学、体育学、スポーツ科学、生活環境や人間工学などの視点から学生が健康について総合的に学ぶことができるよう配慮し、各コースでより専門性の高い教育を行っています。
【身につけるべき「資質・能力」】 - こころと身体 の健康について、総合的な知識を身につけている。 - 専門分野での知識、科学的・論理的思考と方法論を身につけ、実践できる能力を身につけている。	【教育の内容と方法】 1-2 学年では、こころと身体 の健康に関する内容を幅広く学び基礎力を高めるため、幅広い分野の専門基礎科目が開講されています。履修の分野が偏らないように、それぞれの分野の履修科目数が決められています。また、複数の分野にまたがる内容の科目は、ブリッジ科目として設定してあります。3学年以上では、各コースで開講されているより専門性の高い講義、演習、実験・実習を学び専門性を高めます。また、各コースは卒業論文作成に向けて研究指導、執筆指導を行います。	【求める学生像】 身近な生活環境や社会環境、運動習慣や食習慣などの生活習慣と「こころとからだの健康」との関連について幅広く興味を持ち、主体的に学び、学んだ専門知識を社会で活かしたいと考えている学生の入学を期待しています。理系、文系を問わず入学後意欲を持って主体的に学習・研究に取り組める学生の入学を期待しています。また、情報の収集・発信や文献講読において、英語が必要とされる場合が多いので、十分な英語の能力も身につけておくことを希望します。

スポーツ健康科学コースのディプロマポリシー		スポーツ健康科学コースのカリキュラムポリシー		スポーツ健康科学コースの学習成果			
【学位授与の前提となる教育理念】 スポーツ健康科学コースでは、体育学・スポーツ科学に関する幅広い知識を身につけ、社会に役立てるための論理的思考、対応能力、応用能力、チームワーク力、創造力を身につけた人材を養成します。		【基本的なカリキュラム構造】 スポーツ健康科学コースでは、体育学・スポーツ科学に関する内容の講義、演習、実験・実習を開講し、専門性を高めます。コースの必修科目が設定され、体育学・スポーツ科学関連の研究分野について深く学びます。また、卒業論文作成に向けて、研究指導、執筆指導を行います。		(◎=学習成果を上げるために履修することが特に強く求められる科目、○=学習成果を上げるために履修することが強く求められる科目、△=学習成果を上げるために履修することが求められる科目)			
【身につけるべき「資質・能力」】 ・体育学・スポーツ科学に関して幅広く統合的な知識を身につけている。 ・体育・スポーツ指導者、健康づくり指導者としての実技指導力、表現力、リーダーシップ、事業運営能力、多世代にわたる対人コミュニケーション能力を身につけている。		【教育の内容と方法】 スポーツ健康科学コースでは、学際的な基礎知識・専門的知識及び実践的能力を基盤とし、体育学・スポーツ科学に関する内容について講義、演習、実験・実習を行います。実験・実習を通して、講義で学んだ内容の理解が深まるような授業内容になっています。		教養 体育学・スポーツ科学に関する幅広い統合的な知識	専門性 体育学・スポーツ科学特有の学際的な専門的知識及び実践的能力		創造性 体育学・スポーツ科学に関する専門知識を元に、社会に役立てるための論理的思考、対応能力、チームワーク力
カリキュラム							
科目番号	授業科目名	学習目標	対象学生	開講期			
	教養科目群：大学生活入門・パサージュ	・高校までの学習とは異なる、大学ならではの学びとはどのようなものか理解する。 ・奈良女子大学の教員が行っている研究の最先端に触れ、学問の世界を体験する。	1年生以上		○		
	教養科目群：人間と文化	人間と文化に関する幅広い知識を体系的に理解する。 柔軟かつ論理的に思考する力を身に付ける。 自ら課題を発見する力を身に付ける。	1年生以上		○		
	教養科目群：生活と社会	生活と社会に関する幅広い知識を体系的に理解する。 柔軟かつ論理的に思考する力を身に付ける。 自ら課題を発見する力を身に付ける。	1年生以上		○		
	教養科目群：人間と自然	人間と自然に関する幅広い知識を体系的に理解する。 柔軟かつ論理的に思考する力を身に付ける。 自ら課題を発見する力を身に付ける。	1年生以上		○		
	教養科目群：グローバル教育科目	異なる文化や価値観に触れ、国際性の涵養と外国人とのコミュニケーションをとる力を身に付ける。	1年生以上		○		
	現代社会と職業	キャリア教育全体の基礎となる科目。 働きつつ生きることの意味や、その舞台としての現代社会の仕組みを理解する。	1年生以上		○		
	外国語科目	ボーダーレス化、多極化する世界の中で、様々な情報源から現在を読み取り、そこでの自分の位置と進路を見定める力を身に付ける。 言語を通じて異文化への理解を深め、コミュニケーション能力を向上させる。	1年生以上		○		
	健康運動実習	・運動・スポーツの実践が健康の維持・増進に与える効用について理解する。 ・体力測定や各種調査の自己分析を通じて自らの身体への理解を深める。 ・仲間とのコミュニケーションをはかり、主体的に運動・スポーツにかかわる態度を身につける。	1年生以上		◎	○	◎

	情報処理入門	・情報倫理と情報セキュリティの考え方を身につける ・様々な情報システムを安全かつ有効に使う方法を理解する	1回生以上		○			
3100001A1	生活環境学原論	・生活環境学とは何か、学問体系とその内容について理解する ・生活を取巻く自然・社会環境問題を把握する ・生きる哲学と生活科学について考える	1回生以上	後期	○			
3100002A2	育児学	①子どもの心身の成長、発達を知る。 ②子どもの病気や事故について学び、予防について考える。 ③子どもをとりまく生活環境について学び、より望ましい家庭のあり方について考える。 ④子育てをめぐる諸問題や児童福祉に関する行政施策や支援を学び、乳幼児期の保育のあり方について自らの考えを述べるができる。	2回生以上	前期	○			
3100004A1	家庭機械・家庭電気・情報処理	◎生活機器の作動原理、構造等を理解し、安全に利用できる(知識・理解、汎用的技能)。 ◎電気機器に必要な電気の基礎、構造、作用等を理解し、安全に利用できる(知識・理解、汎用的技能)。 ◎コンピュータの基本原理、機能を理解し、安全に利用できる(知識・理解、汎用的技能)。 以上の学習を通して、機器に使われるのではなく、機器を活用する能力・態度を身につける(知識・理解、汎用的技能、態度・志向性)。	1回生以上	後期	○			
3100006A1	食物科学概論	食物科学の基礎について、栄養学、食品学、調理学、微生物学、安全学等の観点から総合的に学ぶ(知識・理解)。	1回生以上	前期	○			
3100007D1	調理学実習(D)	実習を通して、以下の2つの目標達成を目指す。 ・食品とその調理性および栄養価に関する基礎的知識を習得できている(知識・理解)。 ・調理理論の実際と基本的技術、美味形成要因とその評価手法を習得できている(汎用的技能)。	1回生以上 (食物栄養学科)	前期	○			
3100009D1	調理学実習(E)	基本的な調理操作と食品素材の調理特性について理解し(知識・理解)、中学・高等学校家庭科教員としての基本的スキルを獲得する(汎用的技能)。	1回生以上 (食物栄養学科以外)	前期	○			
3100008D1	応用調理学実習(D)	献立作成およびその実習の具体的な実践を重ねることで以下の目標達成を目指す。 ・食事設計に関して必要な知識・技術の向上と応用力・発展力を身につけている(知識・理解、汎用的技能)。	1回生以上 (食物栄養学科)	後期	○			
3100010D1	応用調理学実習(E)	様々な場面における献立の組み方と調理操作の流れを理解する(汎用的技能)。また、食卓の整え方を学び、食文化について造詣を深める(知識・理解)。さらに生涯発達と食教育の観点から食生活を設計する姿勢を身につける(態度・志向性)。	1回生以上 (食物栄養学科以外)	後期	○			
3100011A1	衣環境学概論	被服の素材、機能、染色、洗濯といった被服学の基本的内容から、新規繊維素材、機能性材料の開発に至るまで、被服学に関する最新の知識を習得する。また、中等家庭科被服学領域を担当する上で必要な衣生活に関する系統的な知識と応用能力を修得し、自ら健康で快適な衣生活を営むことができることを目指す。	1回生以上	後期	○			

3100012D1	被服学実習Ⅰ (A)	①被服材料学・管理学・衛生学・意匠学・染色学についての実験・実習を行い、基礎知識を理解する。 ②実験結果から得られたデータをまとめ、実験内容に関わる知識や情報について調べる。 ③衣服について理解を深め、快適な衣生活を送るために必要な能力を身につける。	1回生以上 (食物栄養学科)	前期	○			
3100014D1	被服学実習Ⅰ (B)	①人が装う意味と衣服の機能、その衣服の企画・設計・製作から流通に至るまでの仕組みを理解する。 ②人体形態と衣服の関係、その衣服の立体構成におけるデザイン・設計方法を理解する。 ③教材としての下衣（スカート）の製作から、衣服構成における縫製技法を学ぶ。 ④素材の特性とシルエット形成能の関係を知り、デザインに適した素材選定、取り扱い方法を理解する。 ⑤着装の効果を理解し、心豊かな衣生活創造に向けた知識と能力を習得する。	1回生以上 (生活健康・住環境)	前期	○			
3100016D1	被服学実習Ⅰ (C)	①被服材料学・管理学・衛生学・意匠学・染色学についての実験・実習を行い、基礎知識を理解する。 ②実験結果から得られたデータをまとめ、実験内容に関わる知識や情報について調べる。 ③衣服について理解を深め、快適な衣生活を送るために必要な能力を身につける。	1回生以上 (生活文化学科)	前期	○			
3100018D1	被服学実習Ⅰ (D)	①人体の形態と被服の関わりを理解する。 ②被服造形のための素材とデザインの基礎知識を習得する。 ③立体構成の下衣（スカート）製作の基礎理論を理解し、基礎技法を習得する。 ④原型の製図とデザイン展開の理論と技法を習得する。	1回生以上 (衣環境学専攻)	前期	○			
3100013D1	被服学実習Ⅱ (A)	①人が装う意味と衣服の機能、その衣服の企画・設計・製作から流通に至るまでの仕組みを理解する。 ②人体形態と衣服の関係、その衣服の立体構成におけるデザイン・設計方法を理解する。 ③教材としての下衣（スカート）の製作から、衣服構成における縫製技法を学ぶ。 ④素材の特性とシルエット形成能の関係を知り、デザインに適した素材選定、取り扱い方法を理解する。 ⑤着装の効果を理解し、心豊かな衣生活創造に向けた知識と能力を習得する。	1回生以上 (食物栄養学科)	後期	○			
3100015D1	被服学実習Ⅱ (B)	①被服材料学・管理学・衛生学・意匠学・染色学についての実験・実習を行い、基礎知識を理解する。 ②実験結果から得られたデータをまとめ、実験内容に関わる知識や情報について調べる。 ③衣服について理解を深め、快適な衣生活を送るために必要な能力を身につける。	1回生以上 (生活健康・住環境)	後期	○			
3100017D1	被服学実習Ⅱ (C)	①人が装う意味と衣服の機能、その衣服の企画・設計・製作から流通に至るまでの仕組みを理解する。 ②人体形態と衣服の関係、その衣服の立体構成におけるデザイン・設計方法を理解する。 ③教材としての下衣（スカート）の製作から、衣服構成における縫製技法を学ぶ。 ④素材の特性とシルエット形成能の関係を知り、デザインに適した素材選定、取り扱い方法を理解する。 ⑤着装の効果を理解し、心豊かな衣生活創造に向けた知識と能力を習得する。	1回生以上 (生活文化学科)	後期	○			

3100019D1	被服学実習Ⅱ (D)	①上半身の形態と衣服との関わりを理解する。 ②立体構成の上衣の基礎的知識と製作技法を習得する。 ③上衣の原型とデザインに合わせた展開の技法を習得する。	1回生以上 (衣環境学専攻)	後期	○			
3100020A1	ジェンダー文化論	①ジェンダーのことが意味するものを知る。 ②ジェンダーの視点から社会的な事象を見ることができるようになる。 ③ジェンダー以外にも、年齢、学歴、民族、宗教など、人を分類する基準は複数あることを知る。 ④リプロダクションには国家の利害や権力関係が明瞭に表れることを知る ⑤ジェンダーやセクシュアリティは、文化によって多様であることを知る。	1回生以上 (生活文化学科以外)	前期	○			
3100021A2	家族関係論	1. 家族関係の様々な側面・現象を、データや理論枠組みを通じて具体的に考える力をつける。 2. 家族関係に関する諸理論の基本的知識を身につけ、それぞれの長所と限界を考える。 3. 学問が明らかにする家族の性質、特徴、傾向などを知ることで、自分自身の家族経験を相対化し、家族に関する科学的探究への意欲を高める。 4. 家族に関する問題の解決の道筋や、家族支援や政策のあり方を考えていくための基本的視点を身につける。	2回生以上 (生活文化学科以外)	前期	○			
3100022A2	生活経営学	生活経営の実態について理解し、さらに生活を営んでいくうえで直面する様々な課題に対して主体的に意思決定を行うことのできる能力を養うことを目標とする。	2回生以上 (生活文化学科以外)	前期集中	○			
3100023A1	住環境学概論	①住環境学に関する基礎的知識を学習する(知識・理解)。 ②住まい方や住まいの歴史について知識を深める(知識・理解)。 ③住まいおよび居住地の環境や防災、管理について知識を深める(知識・理解)。 ④住まいの計画手法を学習し、住居設計の基礎的技術を習得する(汎用的技能)。 (対応表) B-1: ◎、C-1: ○	1回生以上	前期	○			
3100024A1	心身健康学概論Ⅰ	身体健康に関わる諸要因について理解する。生活における健康とは何かを理解し、国の施策、健康増進法や医事法規、生活習慣病や介護予防などについて幅広く健康に関連する事項について関心を喚起し、学ぶ意欲を高める。	1回生以上	前期	◎	◎		
3100025A1	心身健康学概論Ⅱ	心理学の成り立ちについて理解する。こころの健康に関わる諸要因について理解していくために必要となる心理学全般についての基礎的な知識、特に人のこころの基本的な仕組み及び働きを学ぶ。こころについて科学的に捉え、アプローチできるような基本的な態度を身につけることで、こころの健康の専門家としての基本的事項を身につけることをねらいとする。	1回生以上	前期	○			
3100026A1	心身健康学概論Ⅱ(心理学概論)	心理学の成り立ちについて理解する。こころの健康に関わる諸要因について理解していくために必要となる心理学全般についての基礎的な知識、特に人のこころの基本的な仕組み及び働きを学ぶ。こころについて科学的に捉え、アプローチできるような基本的な態度を身につけることで、こころの健康の専門家としての基本的事項を身につけることをねらいとする。	1回生以上	前期	○			
3220001A1	心身健康学概論Ⅰ	身体健康に関わる諸要因について理解する。生活における健康とは何かを理解し、国の施策、健康増進法や医事法規、生活習慣病や介護予防などについて幅広く健康に関連する事項について関心を喚起し、学ぶ意欲を高める。	1回生以上	前期	◎	◎		

3220002A1	心身健康学概論Ⅱ	心理学の成り立ちについて理解する。こころの健康に関わる諸要因について理解していくために必要となる心理学全般についての基礎的な知識、特に人のこころの基本的な仕組み及び働きを学ぶ。こころについて科学的に捉え、アプローチできるような基本的な態度を身につけることで、こころの健康の専門家としての基本的事項を身につけることをねらいとする。	1回生以上	前期	○			
3220003A1	心身健康学概論Ⅱ（心理学概論）	心理学の成り立ちについて理解する。こころの健康に関わる諸要因について理解していくために必要となる心理学全般についての基礎的な知識、特に人のこころの基本的な仕組み及び働きを学ぶ。こころについて科学的に捉え、アプローチできるような基本的な態度を身につけることで、こころの健康の専門家としての基本的事項を身につけることをねらいとする。	1回生以上	前期	○			
3220004A1	女性健康論	女性の生理学的な特徴について理解する。 女性のライフステージにおける生理機能の変化について理解する。 女性が、それぞれのライフステージで健康に生きるための生活習慣や生活環境について考えることができる。	1回生以上	後期	○			
3220001A1	心身健康学概論Ⅰ	身体・健康に関わる諸要因について理解する。生活における健康とは何かを理解し、国の施策、健康増進法や医事法規、生活習慣病や介護予防などについて幅広く健康に関連する事項について関心を喚起し、学ぶ意欲を高める。	1回生以上	前期	◎	◎		
3220002A2	衛生・公衆衛生学	人の健康の維持に重要な柱の学問の一つである衛生・公衆衛生学の課題について、最新の統計や調査研究を理解し、それを基に保健問題の解決を図り、さらに社会保障や厚生福祉に対する視点から論理的に分析し、問題を解決できる能力を身につける事を目指す。それにより自らが社会の一員として、人々の健康の増進や維持へ寄与できるよう意識を高める。	2回生以上	前期集中	○			
3220003A2	生活内科学	①正常な生体機能の調節機構を学ぶ。 ②頻度の高い内科的疾患（がん、糖尿病、高血圧症、脂質異常症）を学ぶ。 ③これら疾患が発症するメカニズムについて学ぶ。 ④食事、運動、ストレスなどの生活習慣・生活環境に潜む健康障害因子を学ぶ。 ⑤健康障害因子の生体調節機構に与える影響を理解する。 ⑥心身の健康を維持・増進するための生活環境や生活習慣について理解する。	2回生以上	前期	○			
3220004A2	生活内科学（人体の構造と機能及び疾病）	①正常な生体機能の調節機構を学ぶ。 ②頻度の高い内科的疾患（がん、糖尿病、高血圧症、脂質異常症）を学ぶ。 ③これら疾患が発症するメカニズムについて学ぶ。 ④食事、運動、ストレスなどの生活習慣・生活環境に潜む健康障害因子を学ぶ。 ⑤健康障害因子の生体調節機構に与える影響を理解する。 ⑥心身の健康を維持・増進するための生活環境や生活習慣について理解する。	2回生以上	前期	○			
3220005A2	高齢者生活環境論	1. 弱者に配慮した環境整備の必要性を理解し、生活空間での具体例を知り把握する。 2. 関連用語・語句について理解する。 3. 加齢に伴う機能低下について生理的・心理的・行動的な特徴について理解し、対応する環境配慮方法や環境改善について理解する。 4. 高齢者だけでなく弱者の生活空間整備への配慮点について、どのような対策が必要とされるか理解し、具体的な生活空間における問題点を指摘しその改善方法をいくつか提案できる。	2回生以上	後期	○			

3220006A1	人体生理学	①生理学の基礎知識を習得する。 ②生体の恒常性を維持する仕組みについて理解する。 ③外部・内部環境の変化に応じて生体機能を調整する仕組みについて理解する。	1回生以上	前期	○	○		
3220007A1	スポーツ生理学	本授業の到達目的は、次の点である。 ①人体構造の機能的役割や運動とかかわる生理学的仕組みについて理解する。 ②動きの発現に関わるエネルギー供給機構について理解する。 ③スポーツと呼吸循環、心臓血管系循環の関係や適応について理解する。 ④発育・発達・老化に伴う身体的変化（性差を含む）と運動との関わりについて考える。	1回生以上	後期	◎	○		
3220008A2	人体解剖学	①人体の基本的な構造を知る。 ②臓器の統合性について理解する。 ③医学や医療などの最新の情報を正確に理解する。	2回生以上	前期	○	○		
3220009A2	運動医学論	① 安静・臥床の弊害の理解と運動障害の基礎知識を習得する。 ② 救急処置について学習し、体得する。 ③ 運動負荷試験に潜む危険性とその対処法について学習する。 ④ スポーツ障害における最新の問題を理解する。	2回生以上	前期集中	○	○		
3220010A2	環境生理学	①生理学の基礎知識（筋、循環、呼吸、体温）中心に学習し、発展的内容を習得する。②環境の変化による生体反応について学習する。③運動時だけでなく、日常生活の中に潜む生体への危険性について学習する。④各項目において発展的学習内容として運動時の生理的応答について学習する。	2回生以上	後期	○	○		
3220011A1	スポーツバイオメカニクス	本科目では、ヒトの身体運動のしくみについて、解剖学、生理学、力学の知識をもとに理解する。さらに、これらの知識をもとに指導場面などにおいてその改善に役立てるための応用について考える力を身につける。	1回生以上	後期	◎	○		
3220012A1	体育・スポーツ事故論	学校から地域のスポーツクラブそして民間の商業施設まで、運動やスポーツは盛んになるほど、それに伴う事故は多く発生する。ここではそれぞれの立場による法的責任を知り、具体的事例から事故予防策及び広くリスクの管理について理解する。	1回生以上	前期	◎	○		
3220013A1	生活と生涯スポーツ論	スポーツ文化について学び、自らが住まう社会とスポーツの関係性について理解する。インターネットや新聞、テレビなどでスポーツの動向をチェックし、考察できるようになる。	1回生以上	前期	◎	○		
3220014A1	生涯スポーツ論	スポーツ文化について学び、自らが住まう社会とスポーツの関係性について理解する。インターネットや新聞、テレビなどでスポーツの動向をチェックし、考察できるようになる。	1回生以上	前期	◎	○		
3220015D1	シーズンスポーツ実習・冬	・日常生活内だけではなく、環境の変化や自身のコンディションの変化に伴う際の、判断能力・環境適応能力を身につける ・非日常の共同生活を通して、周囲の人とのコミュニケーション能力を身につける ・スキーマの基本技術を身につけ、安全な滑走ができる ・スキー場における安全確保の知識を身につける ・自然環境保全に対する意識を高める	1回生以上	後期集中	○		◎	
3220016A1	認知神経科学論	ヒト脳における認知機構の解明は、我々ヒト自身への理解を深めることにつながることを認識し、認知神経科学に関する基本的なトピックについての知識を身につける。	1回生以上	後期	◎	○		

3220017A2	身体表現学	伝統的舞踊から日常的場面の表現行動までを対象として、身体から表出される動きの意味や機能について幅広い知識を獲得し、また、身体表現に及ぼす文化や社会の影響を考えることによって、異文化や多様な他者のありようについて理解を深めることを目的とする（異文化理解・知識）。	2回生以上	後期	○	○		○
3220018B2	生活行動変容論 演習	運動指導者として、運動習慣のない者、高齢者、生活習慣病を有する者等に対し、いかにして運動習慣を身に付けてもらうか、理論と実際について学習する。	2回生以上	前期	◎	○		
3220019A2	家族心理学	①家族を理解するための鍵概念や基礎知識を習得すること。 ②家族の多様性を理解し、受講生それぞれが、家族に対する自分なりの考え方を育てるようになること。 ③システム理論の基本的な考え方を理解し、家族をシステムの観点からとらえられるようになること。	2回生以上	前期	○			
3220020A2	家族心理学（社会・集団・家族心理学）	①家族を理解するための鍵概念や基礎知識を習得すること。 ②家族の多様性を理解し、受講生それぞれが、家族に対する自分なりの考え方を育てるようになること。 ③システム理論の基本的な考え方を理解し、家族をシステムの観点からとらえられるようになること。	2回生以上	前期	○			
3220021A2	犯罪心理学	1 心理学的観点から犯罪の原因について説明できるようになる。 2 心理学的観点から犯罪者への対応について説明できるようになる。 3 心理学的観点から犯罪被害者への対応について説明できるようになる。 4 家事事件に関する基本的なことがらを説明できるようになる。	2回生以上	前期	○			
3220022A2	司法・犯罪心理学	1 心理学的観点から犯罪の原因について説明できるようになる。 2 心理学的観点から犯罪者への対応について説明できるようになる。 3 心理学的観点から犯罪被害者への対応について説明できるようになる。 4 家事事件に関する基本的なことがらを説明できるようになる。	2回生以上	前期	○			
3220023A2	教育臨床心理学	現代の学校の現状について理解をし、これからの教育臨床において何が必要か、とくにいじめや不登校等、実際の学校現場で起こっている課題と支援について考える機会とする。	2回生以上	後期	○			
3220024A2	教育臨床心理学 （教育・学校心理学）	現代の学校の現状について理解をし、これからの教育臨床において何が必要か、とくにいじめや不登校等、実際の学校現場で起こっている課題と支援について考える機会とする。	2回生以上	後期	○			
3220025A2	発達臨床心理学	子どもの心的世界とその変化について基礎的知識を習得し、その時期に生じやすい問題や心理的課題について理解を深め、それらに対する心理臨床的援助について学ぶ。	2回生以上	後期	○			
3220026A2	発達臨床心理学 （発達心理学）	子どもの心的世界とその変化について基礎的知識を習得し、その時期に生じやすい問題や心理的課題について理解を深め、それらに対する心理臨床的援助について学ぶ。	2回生以上	後期	○			
3222001A2	体育・スポーツ史	運動やスポーツ活動が、人々にとってどのような意味を持ち、そして今日のような状況になってきたか、歴史的な展開を理解し、個人そして社会とスポーツの今後のかかわりについて考える。	2回生以上	後期	◎	○		

3222002A2	学校保健	学校保健は教育の場で実施される保健活動であり、児童・生徒の健康の保持増進と安全を確保するとともに、生涯を通じて健康生活を実践する態度や能力を養うことを目的とする。本講義では、児童・生徒の心身の発育発達と保健に関する基礎理論、学校における健康増進や疾病予防、環境衛生や安全管理などの実際、保健教育の役割や内容について理解を深めることを目的とする。	2回生以上	後期集中	○			
3222003A3	スポーツ心理学	本授業では、体育・スポーツにおける身体運動について、生理学、運動力学的側面からではなく、心理学的、社会的側面から捉え、身体運動の心理的特性、身体運動の発達、運動スキルの学習理論、脳と心、知覚、リーダーシップ、コーチングなどについて総合的に考えていく力を習得する。	3回生以上	後期	○	◎		○
3222004A3	身体運動制御論	ヒトの随意運動の発現機構と運動制御について理解する。その上で、巧みな動作のメカニズムと研究法について学ぶ。テーマとして、さまざまなスキルを取り上げ、スキルの獲得機構ならびにスキル発揮に影響を及ぼす要因について考える。	3回生以上	前期集中	○	◎		○
3222005A3	スポーツ法学	体育・スポーツ活動の参加者ばかりでなく、運営、管理に携わる者は、さまざまなスポーツに関わる法や法的问题を理解し、対応することが大切となる。スポーツ法学の対象と法的问题の内容、争点等を理解し、応用する力を身につける。	3回生以上	後期	○	◎		○
3222006A3	身体コミュニケーション論	創造的な身体表現が自己の心身に及ぼす影響や他者との関係性に及ぼす影響について、関連領域の文献をレビューして、その研究手法や作用特性を理解する。発育発達の観点や青少年期の課題を含めて、身体表現の重要性について理解を深める。	3回生以上	前期	○	◎		○
3222007A3	体育社会学	スポーツ文化について学び、自らが住まう社会とスポーツの関係性について理解する。インターネットや新聞、テレビなどでスポーツの動向をチェックし、考察できるようになる。	3回生以上	後期	○	◎		○
3222009A3	スポーツ精神生理学	スポーツにおける心身相関関係について関心を深める。関連する論文に触れる中で、専門用語の意味内容を正確にとらえ、学術的問いを立てそれを検証するための科学的方法論を習得する。また、学術論文を的確に理解していく学習を目標とする。	3回生以上	前期	○	◎		○
3222010D2	身体表現実習	(1) 身体が表現媒体として機能するための基礎的体力を養う(汎用的技能)。 (2) 動きが保有するリズム・空間・イメージ要素を理解する(理解)。 (3) 互いに協力しつつ創造的な身体表現能力を身につける(態度・志向性)。	2回生以上	後期		◎	◎	
3222011D2	基礎運動実習	「器械運動」のそれぞれの種目の様々な技の技術的ポイントについて理解する。また、将来保健体育教員となった際に必要となる指導の方法や留意点についても理解する。	2回生以上	前期		◎	◎	
3222012D2	個人スポーツ実習A	受講者は自分自身の技術等の獲得とともに指導者としての視点を身につける。	2回生以上	前期		◎	◎	
3222015D3	チームスポーツ実習B	シュート、ドリブル、パスなどの基本技術を習得し、これらの技術をゲームの中で巧みに用いることができることをめざす。また、ルールを理解し、ゴール型ゲームであるバスケットボール競技のおもしろさを体験する。	3回生以上	後期		◎	◎	

3222018D2	シーズンスポーツ実習・夏	1) 水中で自らの身体を操る能力を高める。2) 比較的長い時間泳いでいられ遠泳の泳法を習得、体験する。3) クロール、平泳ぎ、背泳ぎ、バタフライ、横泳ぎなど各種泳法を習得する。4) 水中エクササイズ・スポーツを体験する。5) 着衣泳を体験し水難事故防止能力を高める。6) 救急法を習得する。	2回生以上	前期集中		◎	◎	
3222020B3	スポーツ健康科学演習 A	論文執筆に向けて、読解力や要約力を身につけ、論理的思考力を高める（汎用的技能）	3回生以上	前期		◎	◎	
3222021B3	スポーツ健康科学演習 B	広く健康・運動・スポーツ行動などに関わる今日的な課題を見出し、それらの課題を解決するための研究方法を理解する。	3回生以上	前期		◎		◎
3222022B2	スポーツ健康科学入門演習 I	スポーツ科学領域における質的データ、量的データ、文献・資料データの扱い方、および研究する意義について理解する。また、実際にデータ処理を行う力を養う。	2回生以上	前期		◎		◎
3222023B2	スポーツ健康科学入門演習 II	実験機器や測定機器の操作手法、統計的手法、プレゼンテーションスキルを身につける（汎用的技能）。	2回生以上	後期		◎		◎
3222024B3	心身健康学研究演習 I	スポーツ科学領域における質的データ、量的データ、文献・資料データを基にした研究に関する総説、論文、資料などについて読む。それぞれの領域の研究法について理解し、内容について考え、議論する力を養う。	3回生以上	前期		◎		◎
3222025B3	心身健康学研究演習 II	文献の読解力や要約力を身につけて論理的思考力を高め、それに基づく発表と論議を繰り返すことにより、プレゼンテーションスキルやディスカッション能力を養う（汎用的技能）。	3回生以上	後期		◎		◎
3222026B4	心身健康学卒業演習 I	運動、スポーツ、スポーツ行動、体育、健康などに関わる研究課題を明確にし、卒業論文作成にむけて、研究計画および方法を具体化する力を養う（態度・志向性、総合的な学習経験）。	4回生(心身健康学科)	前期		◎		◎
3222027B4	心身健康学卒業演習 II	卒業論文のテーマを確定し、各自の課題に関する研究発表を通じて、課題解決に向けての論理的思考力や構成力を身につける（総合的な学習経験）。他者と意見を交換する過程で新たな知識を積極的に探求する姿勢を身につける（態度・志向性）。	4回生(心身健康学科)	後期		◎		◎
3222028F4	卒業研究 I	研究課題を明らかにし、科学的な探求態度を身につける。 研究課題に対して、継続的に取り組む力を身につける。 先行研究を検討し、問題解決にあたる能力を養う。	4回生(心身健康学科)	前期		◎		◎
3222029F4	卒業研究 II	研究課題を明らかにし、科学的な探求態度を身につける。 研究課題に対して、継続的に取り組む力を身につける。 課題にふさわしい問題解決能力を養う。 研究成果発表のためのプレゼンテーション能力を身につける。	4回生(心身健康学科)	後期		◎		◎